

小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない
	(説明) 在籍している学生のキャリア、研究テーマ、将来の進路希望などと、上記の理念・目的が適合しているかどうか、不定期ではあるが、研究科委員会で議論している。
その他	

《評価指標データ》

本学の育成した人材（卒業生）に対する社会（企業）の評価

卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率

在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数

理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	本博士課程後期課程を開設した当初に予測したより受験生が多く、結果として毎年定員を上回る学生が入学していることは、本博士課程の理念と目的が社会のニーズに合致していることを示していると考えられる。
小項目0.0.2	専門職課程の修了生ばかりではなく、他大学大学院修了者や実務家からの志望が少なくないことは、本課程の理念・目的がかなり知られるようになったことを示している。
小項目0.0.3	2011年3月に2名の学生が本課程において博士号を取得したが、その論文テーマ、研究手法はいずれも本課程の理念・目的に沿うものであった。
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	本課程の教育・研究では、実践の中から得られる様々な知見を理論的に解明するとともにそれらの知識の応用性を高めるテーマに重点をおいているが、追究する学術レベルは高く設定している。この点、入試説明会などでより周知せしめたい。
小項目0.0.3	学生の研究指導において、本課程の理念・目的を周知徹底したい。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	入試説明会のほか、博士論文公開発表会などを通じて、本課程で行われている教育・研究の理念・目的、現状をさらに社会に周知する必要がある。
小項目0.0.3	
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	入試説明会、博士論文公開発表会、博士論文の公開などを通じて、本課程の教育・研究の現状を世に周知する。
小項目0.0.3	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○研究科の理念・目的が、社会に更に周知されることが期待されます。

【学内委員】

○「効果が上がっている事項」「改善すべき事項」についても丁寧に記述しています。

○教授会での意見交換が「目標」に挙げられているのはなぜでしょうか。

○毎年定員を上回る学生が入学していることは、本博士課程の理念・目的が社会のニーズに合致しているとも考えられますが、恒常的な定員オーバーにより、教育・研究での支障や教員の負担が過重になっていないのか気になります。

○進捗評価「C」の研究科の理念・目的を掲載するウェブサイトの状況に関する意見交換会の開催については、どの程度進捗しているのでしょうか。「改善すべき事項」の中で具体的に記述することが求められます。

○昨年度の記述に手を加えられ、的確な記述となりました。

○他の刊行物での公表はされていませんか。

○大学基準協会は、「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」ことを達成度においての留意事項としています。

○目標の1. は進捗評価が2年連続「A」ということですから、意見交換会の内容に基づいた具体的な目標を設定することが望まれます。また、中期的な目標もお考えください。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目0.0.1

基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」

達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」

○小項目0.0.2

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」

達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」

○小項目0.0.3

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

・設置以来日が浅く、現状に合わせて研究科の理念、目的を適宜見直すことの必要性は高いと考えている。また、研究者教員と実務家教員の混成チームであり、教員相互の意見交換はよりの確な理念の形成に有効である。

・定員を上回る受験生が確保されており、教員の増強を2011年4月に実施した。

・ウェブサイトの発信力が弱いことを認識しており、ホームページの充実を図る。なお、理念・目的に関し他の刊行物での公表はしていない。

・理念、目的に対しては、現在、研究科委員会での議論が中心だが、2012年度設置予定のアドバザリー会議を使って学外者の意見も取り入れていきたい。そのような一連の動きの中で新たな中期目標を考えていく。